

平成 25 年度 食物アレルギー研究班 第 1 回会議議事録
研究課題「生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の開発および治療指針の策定」

日時：平成 25 年 6 月 8 日（土）13：00～16：00

場所：島根イン青山 多目的ホール パインコートⅡ

住所：〒107-0062 東京都港区南青山 7 丁目 1 番 5 号

班会議プログラム

1. 開会の挨拶、本年度の研究内容について
研究代表者 森田栄伸（島根大学医学部皮膚科）
2. ケースカード集積例の血清の確保について
高橋 仁（島根大学医学部皮膚科）
3. 加水分解コムギアレルギー予後調査について
千貫祐子（島根大学医学部皮膚科）
4. OAS アンケート調査について
片山一朗（大阪大学医学部皮膚科）
5. 小児における運動誘発アナフィラキシーの症例
伊藤浩明（あいち小児保健医療総合センター アレルギー科）
6. エビアレルギーにおける 70 kDa 蛋白の新規アレルゲンとしての可能性について
足立厚子（兵庫県立加古川医療センター皮膚科）
7. 原因食物を同定できない食物依存性運動誘発アナフィラキシー？
平郡真記子、秀 道広（広島大学医学部皮膚科）
8. 化粧品中のタンパク加水分解物等の安全性に関する緊急疫学調査報告
矢上品子、佐野晶代、松永佳世子（藤田保健衛生大学医学部皮膚科）
4. FDEIA、OAS の概念と診断基準についての検討
5. 事務連絡、次回会議日程について

議事録

1. 本年度の研究計画と研究組織について

研究組織は、FDEIA 分科会、OAS 分科会、疫学分科会の 3 組織にて構成し、本研究を実施することとした。また、小児の症例と成人の症例の対比を行うため、下条直樹先生（千葉大学医学部小児科）に加え、伊藤浩明先生（あいち小児保健医療総合センター アレルギー科）に研究協力者として加わっていただくこととした。

加水分解コムギアレルギーの実態調査については、日本アレルギー学会化粧品中のタンパク質分解物の安全性に関する特別委員会と連携し、本研究をすすめることとした。

2. ケースカードの解析と血清の確保について

各機関から登録された FDEIA, OAS, その他の食物アレルギーのケースカードの追加を含めて再解析することとした。

保存血清を確認し、血清が保存されていれば、小麦関連抗原特異的 IgE および Bet v1 および、Lipid transfer protein 特異的 IgE 抗体価を測定し、診断基準やガイドライン作成の資料とすることとした。

3. 加水分解コムギアレルギーの予後調査について

日本アレルギー学会化粧品中のタンパク質分解物の安全性に関する特別委員会と連携し、調査を行うこととした。特別委員会の調査項目に加え、①加水分解コムギ含有石鹼の使用を中止した時期、②グルテン、小麦の RAST 値を調査する。①および②のデータを採取した時期も記載する。プリックテストおよび負荷試験の結果は、記載可能な症例であれば記載する。また、患者が最後に来院したデータを記載しても可とする。

4. OAS のアンケート調査について

OAS 分科会において実施する。調査項目については、OAS 分科会において Web 審議とした。

5. 症例の報告について

各研究者から上記プログラムの内容にて報告していただいた。伊藤浩明先生からは、小児の食物依存性運動誘発アナフィラキシーの特徴についてご発表頂き、成人との同異点について議論した。足立厚子先生からは、エビアレルギーにおける新旧エビ CAP-FEIA の特徴およびエビアレルギーの新規抗原についてご発表頂いた。平郡真記子先生からは、食物依存性運動誘発アナフィラキシーにおいて、原因食品が同定できない症例をご報告いただいた。矢上晶子先生からは、加水分解コムギアレルギーの最新情報を提供いただいた。その中で、本アレルギー患者の予後調査のデータを本研究班で共有可能であること、また、遺伝子解析についての説明をしていただいた。

6. FDEIA, OAS の診断基準（案）について

食物依存性運動誘発アナフィラキシー (Food-Dependent Exercise-Induced Anaphylaxis: FDEIA)

小麦の場合：

- ① 小麦製品の摂取後○時間以内に、運動などの二次的要因により蕁麻疹などのアナフィラキシー症状を生じる。
- ② 血清中に小麦蛋白質 (ω -5 グリアジンを含む) 特異的 IgE が証明される。

③ 小麦蛋白質のプリックテストが陽性を示す。

④ 経口小麦負荷試験（小麦摂取+運動負荷、アスピリン+小麦摂取あるいはアスピリン+小麦摂取+運動負荷）で即時型アレルギー症状が誘発される。

確定診断：①に加えて②、③、④のいずれか1つ以上を満たす。

口腔アレルギー症候群（Oral Allergy Syndrome: OAS）

バラ科果物関連の場合：

① バラ科の果物を摂取時に口腔・咽頭粘膜の過敏症状を示す。

② 血清中にバラ科の果物特異的 IgE が証明される。

③ バラ科の果物によるプリックテストが陽性を示す。

確定診断：①に加えて②、③のいずれか1つ以上を満たす。

ただし、非アレルギー性の血管性浮腫は除く。

などのようにまず個別に検討することとした。

7. 次回の班会議の日程について

平成 25 年度第 2 回班会議の日程は、平成 26 年 1 月 12 日、開催時間は、午前 10:00-14:00 (予定) とし、東京で開催することとした。

厚生労働省科学研究費補助金

「難治性疾患等克服研究事業（免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業）：
生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の開発および治療指針の策定
（H24-難治等（免）-一般-005）」

平成 25 年度 第 2 回 班会議プログラム

日時：平成 26 年 1 月 12 日（日）10：00～15：00（予定）
場所：島根イン青山 多目的ホール パインコートⅡ
住所：〒107-0062 東京都港区南青山 7 丁目 1 番 5 号
Tel：03-3797-3399

事務局：島根大学医学部皮膚科
担当：高橋 仁、板倉絹子
〒693-8501 出雲市塩冶町 89-1
TEL 0853-20-2210
FAX 0853-21-8317
e-mail tkh4@med.shimane-u.ac.jp（高橋）
kinitaku@med.shimane-u.ac.jp（板倉）

平成 25 年度 第 2 回 班会議プログラム

10:00～

開会の挨拶、本年度の研究内容について
研究代表者 森田栄伸 (島根大学医学部皮膚科)

10:05～

当科を受診した加水分解小麦アレルギー患者のまとめ (昨年度「食物アレルギーの病態に基づいた好塩基球を標的とした新規試験法の開発」経過報告)
芝間さやか、宇賀神つかさ、横関博雄 (東京医科歯科大学医学部皮膚科)

10:20～

グルパール 19S による即時型コムギアレルギーの疫学調査と特異 IgE 抗体の経時的検査を指標とした予後調査結果
松永佳世子、矢上晶子、中村政志、佐野晶代、小林東 (藤田保健衛生大学医学部皮膚科学、日本アレルギー学会 化粧品中のタンパク加水分解物の安全性に関する特別委員会)

10:35～

茶のしずく石鹼等に含まれた加水分解コムギによる即時型コムギアレルギー患者における末梢血好塩基球ヒスタミン遊離試験陽性率の経月的推移
平郡真記子、秀道広 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門皮膚科学)

10:50～

加水分解コムギ型小麦アレルギー患者の予後
相原道子 (横浜市立大学医学部皮膚科)

11:05～

加水分解コムギアレルギーの重症化に寄与する因子
福富友馬 (国立病院機構相模原病院臨床研究センター)

11:20～

誘発検査を行った加水分解コムギによる即時型コムギアレルギー症例の臨床と経過とアスピリンの経皮感作に及ぼす研究
杉山晃子、岸川禮子 (国立病院機構福岡病院アレルギー科)

11:35～

加水分解コムギ型小麦アレルギー患者の予後評価と予後決定因子に関する研究
千貫祐子¹⁾、福富友馬²⁾、岸川禮子³⁾、松永佳世子⁴⁾、秀道広⁵⁾、森田栄伸¹⁾ ((1) 島根大学医学部皮膚科、(2) 国立病院機構相模原病院臨床研究センター、(3) 国立病院機構福岡病院アレルギー科、(4) 藤田保健衛生大学医学部皮膚科学、(5) 広島大学医学部皮膚科)

11:50～

口腔アレルギー症候群の血清学的解析
大澤陽子¹⁾、森川太洋¹⁾、伊藤有未²⁾、高橋昇³⁾、杉本千鶴⁴⁾、森繁人⁵⁾、藤枝重治²⁾ ((1) 公立丹南病院耳鼻咽喉科、(2) 福井大学医学部耳鼻咽喉科学教室、(3) 福井総合病院耳鼻咽喉科、(4) 福井社会保険病院耳鼻咽喉科、(5) もり耳鼻咽喉科・アレルギー科クリニック)

12:05～

休憩

12:45～

口腔アレルギー症候群（OAS）の診断における免疫プロット、ELISA、immunoCAP、プリックテストの有用性に関する症例集積検討

小野慧美、松村智加子、松井佐起、木嶋 晶、北場俊、室田浩之、片山一朗（大阪大学医学部皮膚科）

13:00～

OAS の疫学に関する一次アンケート調査の結果報告

北場俊、小野慧美、松井佐起、片山一朗（大阪大学医学部皮膚科）

13:15～

ケースカードの解析結果について

高橋仁¹⁾、塩飽邦憲²⁾、千貫祐子¹⁾、森田栄伸¹⁾ ((1) 島根大学医学部皮膚科、(2) 島根大学)

13:30～

検討事項

加水分解小麦アレルギーの実態と予後調査について

FDEIA および OAS の疾患概念と診断基準について

負荷試験実施要項について

成果の公表について

その他

事務連絡、次回会議日程について

高橋 仁、板倉絹子、藤井 愛（島根大学医学部皮膚科）

平成 25 年度 食物アレルギー研究班第 2 回班会議検討事項議事録
研究課題「生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の
開発および治療指針の策定」

日時：平成 26 年 1 月 12 日（土）10：00～16：00
場所：島根イン青山 多目的ホール パインコートⅡ
住所：〒107-0062 東京都港区南青山 7 丁目 1 番 5 号

班会議プログラム

1. 開会の挨拶、本年度の研究内容について
研究代表者 森田栄伸（島根大学医学部皮膚科）
2. 当科を受診した加水分解小麦アレルギー患者のまとめ（昨年度「食物アレルギーの病態に基づいた好塩基球を標的とした新規試験法の開発」経過報告）
芝間さやか、宇賀神つかさ、横関博雄（東京医科歯科大学医学部皮膚科）
3. グルパール 19S による即時型コムギアレルギーの疫学調査と特異 IgE 抗体の経時的検査を指標とした予後調査結果
松永佳世子、矢上晶子、中村政志、佐野晶代、小林東（藤田保健衛生大学医学部皮膚科学、日本アレルギー学会 化粧品中のタンパク加水分解物の安全性に関する特別委員会）
4. 茶のしずく石鹼等に含まれた加水分解コムギによる即時型コムギアレルギー患者における末梢血好塩基球ヒスタミン遊離試験陽性率の経月的推移
平郡真記子、秀道広（広島大学大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門皮膚科学）
5. 加水分解コムギ型小麦アレルギー患者の予後
相原道子（横浜市立大学医学部皮膚科）
6. 加水分解コムギアレルギーの重症化に寄与する因子
福富友馬（国立病院機構相模原病院臨床研究センター）
7. 誘発検査を行った加水分解コムギによる即時型コムギアレルギー症例の臨床と経過とアスピリンの経皮感作に及ぼす研究
杉山晃子、岸川禮子（国立病院機構福岡病院アレルギー科）
8. 加水分解コムギ型小麦アレルギー患者の予後評価と予後決定因子に関する研究
千貫祐子¹⁾、福富友馬²⁾、岸川禮子³⁾、松永佳世子⁴⁾、秀道広⁵⁾、森田栄伸¹⁾（(1) 島根大学医学部皮膚科、(2) 国立病院機構相模原病院臨床研究センター、(3) 国立病院機構福岡病院アレルギー科、(4) 藤田保健衛生大学医学部皮膚科学、(5) 広島大学医学部皮膚科）

9. 口腔アレルギー症候群の血清学的解析
大澤陽子¹⁾、森川太洋¹⁾、伊藤有未²⁾、高橋昇³⁾、杉本千鶴⁴⁾、森繁人⁵⁾、藤枝重治²⁾ ((1) 公立丹南病院耳鼻咽喉科、(2) 福井大学医学部耳鼻咽喉科学教室、(3) 福井総合病院耳鼻咽喉科、(4) 福井社会保険病院耳鼻咽喉科、(5) もり耳鼻咽喉科・アレルギー科クリニック)
10. 口腔アレルギー症候群 (OAS) の診断における免疫ブロット、ELISA、immunoCAP、プリックテストの有用性に関する症例集積検討
小野慧美、松村智加子、松井佐起、木嶋 晶、北場俊、室田浩之、片山一朗 (大阪大学医学部皮膚科)
11. OAS の疫学に関する一次アンケート調査の結果報告
北場俊、小野慧美、松井佐起、片山一朗 (大阪大学医学部皮膚科)
12. ケースカードの解析結果について
高橋仁¹⁾、塩飽邦憲²⁾、千貫祐子¹⁾、森田栄伸¹⁾ ((1) 島根大学医学部皮膚科、(2) 島根大学)
13. 検討事項
FDEIA および OAS の疾患概念と診断基準について
負荷試験実施要項について
加水分解小麦アレルギーの実態と予後調査について
成果の公表について
14. 事務連絡、次回会議日程について

検討事項

1. 加水分解コムギアレルギーの実態と予後調査について
 - ①患者発生の実態は日本アレルギー学会の特別委員会にて集計作業実施中
 - ②予後調査 (島根大学、相模原病院、広島大学、福岡病院、藤田保健衛生大学) 略治群、未治癒群、未摂取群の調査の追加を実施する
略治：通常の食事および日常生活を行い 3 ヶ月以上即時型アレルギー症状のない場合と定義する。
2. FDEIA および OAS の疾患概念と診断基準について
 - ① 疾患概念の変更
食物依存性運動誘発アナフィラキシー (Food-Dependent Exercise-Induced Anaphylaxis: FDEIA) 「即時型食物アレルギーの特殊型で、特定の食物摂取と運動等の二次的要因の

組み合わせで蕁麻疹等のアナフィラキシー症状をきたすものをいい、重篤な場合はショックをきたす。二次的要因には非副腎皮質ステロイド系消炎鎮痛薬の服用やアルコール飲料の摂取などを含む。」

口腔アレルギー症候群 (Oral Allergy Syndrome: OAS) 「即時型アレルギーの特殊型で、食物摂取時に口腔・咽頭粘膜の過敏症状をきたすものをいい、重篤な場合はショックをきたす。」

②診断基準（案）の議論

小麦 FDEIA の場合：

- ① 小麦製品の摂取後に、運動などの*二次的要因により蕁麻疹などの即時型アレルギー症状を生じる。
- ② 経口小麦負荷試験（小麦摂取+運動負荷、アスピリン+小麦摂取あるいはアスピリン+小麦摂取+運動負荷）で即時型アレルギー症状が誘発される。
- ③ 血清中に小麦蛋白質（ ω -5 グリアジンを含む）特異的 IgE が証明される。
- ④ 小麦蛋白質のプリックテストが陽性を示す。

確定診断：①と②を満たす。または①を複数回繰り返し、③または④、あるいは両者を満たす。

*二次的要因には非副腎皮質ステロイド系消炎鎮痛薬の服用やアルコール飲料の摂取などを含む。

バラ科果物関連 OAS の場合：

- ① バラ科の果物を摂取時に口腔・咽頭粘膜の過敏症状を示す。
- ② バラ科の果物によるプリックテストが陽性を示す。
- ③ 血清中にバラ科の果物特異的 IgE が証明される。
- ④ 血清中にシラカバあるいはハンノキ特異的 IgE が証明される。

確定診断：①～④の全てを満たす。または複数のバラ科果物で①、②を満たす。①を満たし、③または④、あるいは両者を満たす場合は疑い例とする。

3. 負荷試験実施要項について

FDEIA 負荷試験の実施マニュアル案の作成を行い、次回までに班員に伝達して意見を乞う。（参考：臨床皮膚科増刊号 2008 年、食物アレルギー経口負荷試験ガイドライン 2009）

4. 成果の公表について

来年度は成果をまとめたパンフレットの作成と学会ホームページへの掲載を行う。集計例の論文化を行う。

5. OAS 患者に対するアンケートについて

各施設において、外来受診の患者さんに対して OAS に関するアンケート調査の実施が大阪大学より提案された。各施設において、大阪大学で承認された倫理委員会の書類を基に、倫理委員会の承認を受けた後実施する。準備でき次第、大阪大学より倫理委員会の承認書類等に関する連絡を行う。

6. 抗 IgE 抗体療法について

悠香、フェニックス、片山工業による 5000 万円の基金を設立し、加水分解コムギアレルギーの難治例における抗 IgE 抗体療法の有効性を検討する医師主導臨床研究が希望施設において実施される予定である。基金の管理は NPO 法人「生活習慣病予防研究センター」にて行われる。

7. 平成 26 年度第一回班会議は平成 26 年 7 月 6 日（日）に予定

V. 研究成果の刊行に関する一覧表

著書

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
森田栄伸	食べたあと運動するとショックになる食物アレルギーがあると聞きましたがどのようなものですか？	宮地良樹	続・患者さんから浴びせられる 皮膚疾患100の質問～達人はどう答え、どう対応するか～	メディカルレビュー社	東京	2013	54-55
森田栄伸 千貫祐子	Molecular allergology(MA)によるアレルギー特異的IgE抗体価の測定は職業性蕁麻疹(職業性接触蕁麻疹)の診断に有用か？	協和企画	職業性アレルギー疾患診療ガイドライン2013	協和企画	東京	2013	96-97
森田栄伸	食物依存性運動誘発アナフィラキシー	海老澤元宏	症例を通じて学ぶ年代別食物アレルギーのすべて	南山堂	東京	2013	212-213
森田栄伸	経皮感作とアレルギーマーチ	宮地良樹	WHAT'S NEW in 皮膚科学 2014-2015	メディカルレビュー社	東京	2014	56-57
森田栄伸	食物依存性運動誘発アナフィラキシー(FDEIA)診断の決め手—FDEIAの診断に迷うときの解決法は？	宮地良樹	苦手な外来皮膚疾患100の解決法～その時達人はどのように苦手皮膚疾患を克服したか？～	メディカルレビュー社	東京	2014	60-61
片山一朗	蕁麻疹 蕁麻疹の類症 71.アトピー性皮膚炎と蕁麻疹の関係診る・わかる・治す	古江増隆	皮膚科臨床アセット16 蕁麻疹・血管性浮腫 パーフェクトマスター	中山書店	東京	2013	306-311
片山一朗	膠原病および類似疾患 9.Sjogren症候群	瀧川雅浩 渡辺晋一	皮膚疾患の最新の治療2013-2014	南江堂	東京	2013	90
片山一朗	炎症性皮膚疾患 第12章 膠原病とその類症	橋本 隆 岩月啓氏 照井 正	標準皮膚科学	医学書院	東京	2013	158-185
片山一朗	様々な皮膚疾患と関連領域 第33章 粘膜炎とその関連疾患	橋本 隆 岩月啓氏 照井 正	標準皮膚科学	医学書院	東京	2013	547-557
片山一朗	掌蹠膿疱症 第1章 各疾患の診断と治療 I.湿疹と類症	横関博雄 片山一朗	高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス—鑑別と治療のポイント—	医薬ジャーナル	東京	2013	50-54
片山一朗	アトピー性皮膚炎 ポケットサイズのステロイド	宮坂信之	診療マニュアル	新興医学出版社	東京	2013	148-153
千貫祐子	肉アレルギー(α-gal)	海老澤元宏	症例を通じて学ぶ年代別食物アレルギーのすべて	南山堂	東京	2013	224-225
千貫祐子	小麦アレルギーの多彩な症状と対応抗原	宮地良樹	WHAT'S NEW in 皮膚科学 2014-2015	メディカルレビュー社	東京	2014	50-51
佐藤貴浩	紅斑の発症メカニズム	古江増隆 横関博雄	皮膚科臨床アセット18「紅斑症と痒疹群」	中山書店.	東京	2013	7-11
高山かおる	成人Still病に伴う紅斑の症状・診断・治療	古江増隆 横関博雄	皮膚科臨床アセット18「紅斑症と痒疹群」	中山書店.	東京	2013	91-95

岡 恵子	点状紅斑の概念・病態・診断・治療	古江増隆 横関博雄	皮膚科臨床アセット18「紅班症と痒疹群」	中山書店.	東京	2013	149-152
沢田泰之	手掌紅斑の概念・病態・診断・治療	古江増隆 横関博雄	皮膚科臨床アセット18「紅班症と痒疹群」	中山書店.	東京	2013	153-157
佐藤貴浩	痒疹の定義・分類	古江増隆 横関博雄	皮膚科臨床アセット18「紅班症と痒疹群」	中山書店.	東京	2013	166
宇賀神つかさ	痒疹発症における好塩基球の役割.	古江増隆 横関博雄	皮膚科臨床アセット18「紅班症と痒疹群」	中山書店.	東京	2013	167-171
佐藤貴浩	急性痒疹・亜急性痒疹の概念・病態・症状.	古江増隆 横関博雄	皮膚科臨床アセット18「紅班症と痒疹群」	中山書店.	東京	2013	172-173
西澤 綾	急性痒疹・亜急性痒疹の診断・治療・生活指導.	古江増隆 横関博雄	皮膚科臨床アセット18「紅班症と痒疹群」	中山書店.	東京	2013	174-178
横関博雄	慢性痒疹の定義・分類・症状・病理・診断・鑑別診断	古江増隆 横関博雄	皮膚科臨床アセット18「紅班症と痒疹群」	中山書店.	東京	2013	179-183
佐藤貴浩	第1章 各疾患の診断と治療. I.湿疹と類症. 1.皮膚瘙癢症	横関博雄 片山一朗	高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス	医薬ジャーナル	東京	2013	12
高山かおる	第1章 各疾患の診断と治療. I.湿疹と類症. 2.接触皮膚炎	横関博雄 片山一朗	高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス	医薬ジャーナル	東京	2013	14
井川 健	第1章 各疾患の診断と治療. I.湿疹と類症. 6.ビダール苔癬.	横関博雄 片山一朗	高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス	医薬ジャーナル	東京	2013	28
佐藤貴浩	第1章 各疾患の診断と治療. I.湿疹と類症. 9.多形慢性痒疹.	横関博雄 片山一朗	高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス	医薬ジャーナル	東京	2013	41-43
沢田泰之	第1章 各疾患の診断と治療. III.物理的障害および薬剤による疾患 1.下腿潰瘍、静脈瘤、慢性色素性紫斑	横関博雄 片山一朗	高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス	医薬ジャーナル	東京	2013	70-78
高山かおる	第1章 各疾患の診断と治療. III.物理的障害および薬剤による疾患 6.胼胝・鶏眼	横関博雄 片山一朗	高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス	医薬ジャーナル	東京	2013	97-99
西澤 綾	第1章 各疾患の診断と治療. III.物理的障害および薬剤による疾患 8.扁平苔癬	横関博雄 片山一朗	高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス	医薬ジャーナル	東京	2013	104-107
高山かおる	第1章 各疾患の診断と治療. IV老化に伴う皮膚変化 6.爪の変化	横関博雄 片山一朗	高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス	医薬ジャーナル	東京	2013	127-129
高河慎介 沢田泰之	第1章 各疾患の診断と治療. VIII.糖尿病性皮膚症 1.糖尿	横関博雄 片山一朗	高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス	医薬ジャーナル	東京	2013	206-211

井川 健	第2章 外用剤の種類と使い方. I.ステロイド外用剤	横関博雄 片山一朗	高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス	医薬ジャーナル	東京	2013	224-230
井川 健	肉芽腫性皮膚疾患 サルコイドーシス・ 他の肉芽腫. Vリ ポイド類壊死症. 38. リポイド類壊死 症の治療と経過	横関博雄 片山一朗	皮膚科臨床アセット14	中山書店	東京	2013	221-223

論文

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Sano Y, Masuda K, Tamagawa-Mineoka R, Matsunaka H, Murakami Y, Yamashita R, Morita E, Katoh N	Thymic stromal lymphopoietin expression is increased in the horny layer of patients with atopic dermatitis.	Clin Exp Immunol	171(3)	330-337	2013
Morita E, Chinuki Y, Takahashi H	Recent advances of in vitro tests for the diagnosis of food-dependent exercise-induced anaphylaxis.	J Dermatol Sci	71	155-159	2013
Yokooji T, Kurihara S, Murakami T, Chinuki Y, Takahashi H, Morita E, Harada S, Ishii K, Hiragun K, Hide M, Matsuo H	Characterization of Causative Allergens for Wheat-Dependent Exercise-Induced Anaphylaxis Sensitized with Hydrolyzed Wheat Proteins in Facial Soap.	Allergol Int	62(4)	435-445	2013
Takahashi H, Chinuki Y, Tanaka A Morita E	Laminin γ -1 and collagen α -1 (VI) chain are galactose- α -1,3-galactose-bound allergens in beef.	Allergy	69	199-207	2014
Kohno K, Matsuo H, Takahashi H, Niihara H, Chinuki Y, Kaneko S, Honjoh T, Horikawa T, Mihara S, Morita E	Serum gliadin monitoring extracts patients with false negative results in challenge tests for the diagnosis of wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis.	Allergol Int.	62 (2)	229-238	2013
Iseki C, Kawanami T, Tsunoda T, Chinuki Y, et al.	Chronic headaches and sleepiness caused by facial soap (containing hydrolyzed wheat proteins)-induced wheat allergy.	Intern Med.	53	151-154	2014
Chinuki Y, Takahashi H, et al.	Higher allergenicity of high molecular weight hydrolysed wheat protein in cosmetics for percutaneous sensitization.	Contact Dermatitis.	68	86-93	2013
森田栄伸	蕁麻疹・即時型アレルギーの臨床診断の注意点.	Visual Dermatology	12(4)	373-377	2013
森田栄伸, 千貫祐子, 松尾裕彰	経皮感作による小麦アレルギー.	皮膚アレルギーフロンティア	11(3)	17-20	2013

千貫祐子, 森田栄伸	皮膚アレルギー検査のスキルアップ「Molecular Allergology」時代の到来.	MB Derma	203	19-24	2013
高橋 仁, 千貫祐子, 森田栄伸	牛肉アレルギーとセツキシマブアレルギー.	臨床皮膚科	67(増5)	14-17	2013
千貫祐子, 森田栄伸	加水分解小麦含有石鹼による全身性小麦アレルギー.	アレルギー・免疫	20(6)	884-891	2013
千貫祐子, 森田栄伸	加水分解小麦による小麦アレルギー.	MB Derma	205	53-59	2013
森田栄伸	食物依存性運動誘発アナフィラキシー.	Modern Physician	33(8)	1016-1018	2013
千貫祐子, 高橋 仁, 森田栄伸	牛肉アレルギー患者20例の臨床的および血清学的解析.	日本皮膚科学会雑誌	123(9)	1807-1814	2013
足立厚子, 田中 昭, 千貫祐子, 森田栄伸	エビアレルギーにおける70kDa蛋白の新規アレルゲンとしての可能性について.	アレルギー	62(8)	960-961	2013
千貫祐子, 森田栄伸	皮膚即時型アレルギー疾患の診断に必要な基礎知識.	日本皮膚科学会雑誌	123(12)	2219-2225	2013
松木真吾, 千貫祐子, 新原寛之, 森田栄伸	診断に好塩基球活性化マーカーCD203c測定が有用であった豆乳アナフィラキシーの1例.	西日本皮膚科	75(6)	496-498	2013
千貫祐子, 森田栄伸	食物アレルギーに対する低アレルゲン食とオマリズマブの試み.	日本皮膚科学会雑誌	123(13)	2603-2605	2013
千貫祐子, 森田栄伸	抗EGFR抗体製剤等による副作用.	日本皮膚科学会雑誌	123(13)	2693-2695	2013
千貫祐子, 高橋 仁, 森田栄伸	セツキシマブと α -gal IgE.	アレルギー・免疫	20(12)	1838-1842	2013
千貫祐子, 伊藤和行, 武田真紀子, 竹内 薫, 高橋 仁, 森田栄伸	セツキシマブによるアナフィラキシーショックの4例— α -gal特異的IgE検出による回避の可能性—.	日本皮膚科学会雑誌	124(2)	179-183	2014
森田栄伸, 千貫祐子, 高橋 仁	牛肉による蕁麻疹は抗がん剤の副作用を予知している.	日皮協ジャーナル	36(2)	93-96	2014
森田栄伸	食物依存性運動誘発アナフィラキシー—病態と治療の最前線とその実際—.	Medical Practice	31(2)	299-302	2014
森田栄伸, 千貫祐子, 高橋 仁	蕁麻疹～牛肉による蕁麻疹はセツキシマブのアナフィラキシーを予知している～.	アレルギー・免疫	21(3)	465-580	
Inomata N, Okazaki F, Moriyama T, Nomura Y, Yamaguchi Y, Honjo T, Kawamura Y, Narita H, Aihara M	Identification of peamaclein as a marker allergen related to systemic reactions in peach allergy.	Ann Allergy Asthma Immunol	112	175-183	2014
池田信昭, 伊藤香世子, 相原道子	オレンジアレルギー—オレンジアレルギー.	皮膚病診療	35(2)	153-156	2013

岡田里佳, 澤城晴名, 相原道子	クロモグリク酸ナトリウム内服で症状が増強されたエビアレルギーの1例.	日小皮膚会誌	32(2)	143-147	2013
Hanafusa T, Igawa K, Kotobuki Y, Kitaba S, Tani M, Katayama I	Systemic lymphadenopathy with systemic sclerosis and Sjögren's syndrome: a case report.	J Dermatol.	40(2).	124-125	2013
Kijima A, Murota H, Takahashi A, Arase N, Yang L, Nishioka M, Yamaoka T, Kitaba S, Yamauchi-Takahara K, Katayama I	Prevalence and impact of past history of food allergy in atopic dermatitis.	Allergol Int.	62(1)	105-112	2013
Tanaka A, Tanemura A, Tsuji C, Katayama I, Masuzawa M, Nakashima Y	Epithelioid angiosarcoma of the skin with spontaneous regression.	J Dermatol.	40(3)	215-217	2013
Terao M, Itoi S, Murota H, Katayama I	Expression profiles of cortisol-inactivating enzyme, 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase-2, in human epidermal tumors and its role in keratinocyte proliferation.	Exp Dermatol.	22(2)	98-101.	2013
Oiso N, Suzuki T, Wataya-Kaneda M, Tanemura A, Tanioka M, Fujimoto T, Fukai K, Kawakami T, Tsukamoto K, Yamaguchi Y, Sano S, Mitsuhashi Y, Nishigori C, Morita A, Nakagawa H, Mizoguchi M, Katayama I	Guidelines for the diagnosis and treatment of vitiligo in Japan.	J Dermatol.	40(5)	344-354.	2013
Murakami Y, Wataya-Kaneda M, Tanaka M, Katayama I	Case of tuberous sclerosis complex complicated by mosaic localized neurofibromatosis type 1.	J Dermatol.	40(5)	413-414.	2013
Hanafusa T, Matsui S, Murota H, Tani M, Igawa K, Katayama I	Increased frequency of skin-infiltrating FoxP3+ regulatory T cells as a diagnostic indicator of severe atopic dermatitis from cutaneous T cell lymphoma.	Clin Exp Immunol.	172(3)	507-512.	2013
Nakajima K, Terao M, Takaishi M, Kataoka S, Goto-Inoue N, Setou M, Horie K, Sakamoto F, Ito M, Azukizawa H, Kitaba S, Murota H, Itami S, Katayama I, Takeda J, Sano S	Barrier abnormality due to ceramide deficiency leads to psoriasiform inflammation in a mouse model.	J Invest Dermatol.	133(11)	2555-2565.	2013
Wataya-Kaneda M, Tanaka M, Hamasaki T,	Trends in the prevalence of tuberous sclerosis complex	PLoS One.	8(5)	e63910.	2013

Katayama I	manifestations: an epidemiological study of 166 Japanese patients.				
Tanaka A, Nakano M, Tani M, Kira M, Katayama I, Nakagawa J, Tahara K, Koh S, Goto S, Takahashi R	Adult case of Stevens-Johnson syndrome possibly induced by Chlamydophila pneumoniae infection with severe involvement of bronchial epithelium resulting in constructive respiratory disorder.	J Dermatol.	40(6)	492-494.	2013
Hirobe S, Azukizawa H, Matsuo K, Zhai Y, Quan YS, Kamiyama F, Suzuki H, Katayama I, Okada N, Nakagawa S	Development and clinical study of a self-dissolving microneedle patch for transcutaneous immunization device.	Pharm Res.	30(10)	2664-2674.	2013
Arase N, Wataya-Kaneda M, Oiso N, Arase H, Katayama I	CD1a-positive familial cutaneous mastocytosis without germ-line or somatic mutations in c-kit.	Br J Dermatol.	69(1)	201-204.	2013
Takehara Y, Satoh T, Nishizawa A, Saeki K, Nakamura M, Masuzawa M, Kaneda Y, Katayama I, Yokozeki H	Anti-tumor effects of inactivated Sendai virus particles with an IL-2 gene on angiosarcoma.	Clin Immunol.	149(1)	1-10.	2013
Tanaka M, Wataya-Kaneda M, Nakamura A, Matsumoto S, Katayama I	First left-right comparative study of topical rapamycin vs. vehicle for facial angiofibromas in patients with tuberous sclerosis complex.	Br J Dermatol.	169(6)	1314-1318.	2013
Takahashi A, Murota H, Matsui S, Kijima A, Kitaba S, Lee JB, Katayama I	Decreased Sudomotor Function is Involved in the Formation of Atopic Eczema in the Cubital Fossa.	Allergol Int.	62(4)	473-478.	2013
Itoi S, Terao M, Murota H, Katayama I	11 β -Hydroxysteroid dehydrogenase 1 contributes to the pro-inflammatory response of keratinocytes.	Biochem Biophys Res Commun.	440(2)	265-270.	2013
Umegaki-Arao N, Tamai K, Nimura K, Serada S, Naka T, Nakano H, Katayama I	Karyopherin Alpha2 Is Essential for rRNA Transcription and Protein Synthesis in Proliferative Keratinocytes.	PLoS One.	8(10)	e76416.	2013
Sugiyama D, Nishikawa H, Maeda Y, Nishioka M, Tanemura A, Katayama I, Ezoe S, Kanakura Y, Sato E, Fukumori Y, Karbach J, Jäger E, Sakaguchi S	Anti-CCR4 mAb selectively depletes effector-type FoxP3+CD4+ regulatory T cells, evoking antitumor immune responses in humans.	Proc Natl Acad Sci U S A.	110(44)	17945-17950.	2013
片山一朗	見逃したくない皮膚症状～全身疾患を診断するための考え 発疹に潜む重症全身疾患 3環状紅斑.	Modern Physician	vol.33 No8	947-951.	2013

片山一朗	TRPとアレルギー疾患.	アレルギーと神経ペプチド	9	13	2013
片山一朗	アトピー性皮膚炎《アレルギー疾患ガイドラインとその使い方》	Modern Physician	33(2)	160-164	2013
片山一朗	皮膚アレルギーに対する免疫療法.	臨床免疫・アレルギー科	60(2)	189-195	2013
片山一朗	加水分解コムギ含有石鹼によるアナフィラキシー.	日本医師会雑誌	142 (6)	1305	2013
杉山晃子, 岸川禮子	加水分解コムギによるコムギアレルギーの治療について.	臨床免疫・アレルギー科	60(4)	405-410	2013
Iseki C, Kawanami T, Tsunoda T, Chinuki Y, Kato T	Chronic Headaches and Sleepiness Caused by Facial Soap (Containing Hydrolyzed Wheat Proteins)- Induced Wheat Allergy.	Intern Med	53	151-154	2014
松永佳世子, 矢上晶子, 中村政志, 佐野晶代, 小林東	(旧) 茶のしずくによる石鹼アレルギー	公衆衛生	77	801-808	2013
矢上晶子, 松永佳世子	加水分解コムギ含有石鹼によるコムギアレルギーの疫学と社会的意義	アレルギー・免疫	20	224-232	2013
古田加奈子, 伊佐見真実子, 矢上晶子, 鶴田京子, 田中紅, 美浦麻衣子, 廣川景子, 亀山梨奈, 稲葉弥寿子, 鈴木加余子, 松永佳世子	化粧品パッチテスト2009年のまとめ	J Environ Dermatol Cutan Allergol	7	34-43	2013
西村 景子, 矢上晶子, 佐野晶代, 古田 加奈子, 伊佐見 真実子, 松永佳世子	化粧品パッチテスト2010年のまとめ	J Environ Dermatol Cutan Allergol	10	78-86	2013
Yanase Y, Hiragun T, Yanase T, Kawaguchi T, Ishii K, Hide M	Application of SPR imaging sensor for detection of individual living cell reactions and clinical diagnosis of type I allergy.	Allergol Int	62	163-9	2013
Hide M, Hiragun M, Hiragun T	Diagnostic tests for urticaria.	Immunol Allergy Clin North Am	34	53-72	2014
Hiragun M, Ishii K, Hiragun T, Shindo H, Mihara S, Matsuo H, Hide M	The sensitivity and clinical course of patients with wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis sensitized to hydrolyzed wheat protein in facial soap.	Allergol Int	62	351-8	2013
Hiragun T, Ishii K, Hiragun M, Suzuki H, Kan T, Mihara S, Yanase Y, Bartels J, Schröder JM, Hide M	Fungal protein MGL_1304 in sweat is an allergen for atopic dermatitis patients.	J Allergy Clin Immunol;	132	608-15	2013
Hiragun M, Hiragun T, Mihara S, Akita T, Tanaka J, Hide M	Prognosis of chronic spontaneous urticaria in 117 patients not controlled by a standard dose of	Allergy	68	229-35	2013

	antihistamine				
Matsuo H, Yokooji T, Morita H, Ooi M, Urata K, Ishii K, Takahagi S, Yanase Y, Hiragun T, Mihara S, Hide M	Aspirin Augments IgE-Mediated Histamine Release from Human Peripheral Basophils via Syk Kinase Activation.	Allergol Int	62	503-11	2013
Choi H, Tanaka M, Hiragun T, Hide M	Non-tumor mast cells cultured in vitro on a honeycomb-like structured film proliferate with multinucleated formation.	Nanomedicine	10	313-319	2014
Yokooji T, Kurihara S, Murakami T, Chinuki Y, Takahashi H, Morita E, Harada S, Ishii K, Hiragun M, Hide M, Matsuo H	Characterization of causative allergens for wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis sensitized with hydrolyzed wheat proteins in facial soap.	Allergol Int	62	435-45	2013
Maurer M, Bindslev-Jensen C, Gimenez-Arnau A, Godse K, Grattan CE, Hide M, Kaplan AP, Makris M, Simons FE, Zhao Z, Zuberbier T, Church MK	GA2LEN Taskforce on unmet needs in urticaria: Chronic idiopathic urticaria (CIU) is no longer idiopathic: time for an update.	Br J Dermatol	168	455-6	2013
Hiragun M, Hiragun T, Ishii K, Suzuki H, Tanaka A, Yanase Y, Mihara S, Haruta Y, Kohno N, Hide M.	Elevated Serum IgE against MGL_1304 in Patients with Atopic Dermatitis and Cholinergic Urticaria.	Allergol Int	63	83-93	2014
Yanase Y, Hiragun T, Ishii K, Kawaguchi T, Yanase T, Kawai M, Sakamoto K, Hide M.	Surface plasmon resonance for cell-based clinical diagnosis.	Sensors (Basel)	14	44948-59	2014
平郡真記子、秀 道広	蕁麻疹・即時型アレルギーの血液検査.	Visual Dermatology	12	368-372	2013
戸田さゆり、秀 道広	アトピー性皮膚炎の評価方法と重症度分類.	薬局	64	1871-1877	2013
秀 道広	序 ～蕁麻疹の病態の点をつなぐ糸～.	アレルギー・免疫	20	207	2013
森桶 聡、秀 道広	蕁麻疹と感染症の関わり.	アレルギー・免疫	20	216-222	2013
戸田さゆり、秀 道広	機械性蕁麻疹の診断と治療.	アレルギー・免疫	20	272-278	2013
秀 道広	蕁麻疹診療ガイドラインについて.	日本臨床皮膚科医会雑誌	30	302-312	2013
宮地良樹、古江増隆、秀 道広、佐藤伸一、川島 眞	慢性蕁麻疹に対する患者自覚症状・治療実態調査.	Progress in Medicine	33	2031-2041	2013
平郡真記子、秀 道広	抗ヒスタミン薬のアドヒアランスを高めるために.	皮膚アレルギーフロンティア	11	91-95	2013

秀 道広	内科診療にガイドラインを生かす.	medicina	50	500-505	2013
平郡真記子	蕁麻疹の予後.	アレルギー・免疫	20	264-271	2013
大原直樹、秀 道広	全身に結節が多発した肥満細胞症の1例.	日小皮会誌	32	49-53	2013
金子 栄、各務竹康、澄川靖之、大原直樹、秀 道広、森田栄伸	アトピー性皮膚炎患者指導に関する医師および患者を対象としたアンケート調査：両者間でみられた認識の相違.	日本皮膚科学会雑誌	123	2091-2013	2013
福富 友馬	(旧)茶のしずく石鹼による小麦アレルギー問題からの教訓	職業・環境アレルギー誌	20 (2)	P1-11	2013
Yamada T, Saito H, Fujieda S	Present state of Japanese cedar pollinosis: The national affliction.	J Allergy Clin Immunol.	133(3)	632-639	2014
Okamoto Y, Ohta N, Okano M, Kamiyo A, Gotoh M, Suzuki M, Takeno S, Terada T, Hanazawa T, Horiguchi S, Honda K, Matsune S, Yamada T, Yuta A, Nakayama T, Fujieda S	Guiding principles of subcutaneous immunotherapy for allergic rhinitis in Japan.	Auris Nasus Larynx	41(1)	1-5	2014
Yatagai Y, Sakamoto T, Masuko H, Kaneko Y, Yamada H, Iijima H, Naito T, Noguchi E, Hirota T, Tamari M, Imoto Y, Tokunaga T, Fujieda S, Konno S, Nishimura M, Hizawa N	Genome-wide association study for levels of total serum IgE identifies HLA-C in a Japanese population.	PLoS One	8(12)	e80941	2013
Nagai K, Tahara-Hanaoka S, Morishima Y, Tokunaga T, Imoto Y, Noguchi E, Kanemaru K, Imai M, Shibayama S, Hizawa N, Fujieda S, Yamagata K, Shibuya A	Expression and function of Allergin-1 on human primary mast cells.	PLoS One	8(10)	e76160	2013
Imoto Y, Tokunaga T, Matsumoto Y, Hamada Y, Ono M, Yamada T, Ito Y, Arinami T, Okano M, Noguchi E, Fujieda S	Cystatin SN upregulation in patients with seasonal allergic rhinitis.	PLoS One	8(8)	e67057	2013
Tomita K, Sakashita M, Hirota T, Tanaka S, Masuyama K, Yamada T, Fujieda S, Miyatake A, Hizawa N, Kubo M, Nakamura Y, Tamari M	Variants in the 17q21 asthma susceptibility locus are associated with allergic rhinitis in the Japanese population.	Allergy	68 (1)	92-100	2013
Takahashi E, Yokozeki	Atrophic fibrous hamartoma of	J Dermatol.	40(3)	212-4	2013